

ふじみサラダボール子育て情報

「自我の芽生え」

令和元年7月3日号

板橋富士見幼稚園



遊びと生活から心が育つ

子育ては、多くの方がどこまで遊ばせ、どこまで生活のきまりを教えたらいのかに戸惑います。子どもは、1歳半から2歳過ぎたころから自我が強くなり、自立しようとする思いから、親の言うことに反発するようになってきます。当然、親は今まで素直な子だったのに何故、と考え込んでしまいます。

でも、よく考えてみてください。実は、自我が芽生える前は、自分という存在にまったく気づかず、親や周囲の大人たちに依存し成長してきました。成長と共に、子どもは次第に、自分がわかるようになり、自分のしたいことに強い欲求を示すようになってきます。



それは、知恵が授かり始めた証拠です。今まで親の言う通り、遊びも生活も何不自由なくしてもらっていた自分から、「私」が芽生えてきたのです。

つまり、自分が分かるようになってきたということです。「私」は、「じんぶ（自分）」。よく耳にするようになったと思いませんか。

お洗濯物を取り込んでいたり、畳んでいたりすると、「じんぶもやりたい」「じんぶもやる」と、しきりにやってみたいと強く求めてきます。何についても興味や関心を示し、好奇心が揺さ振られるのです。そのたびに、親はイライラさせられることと思います。

でも、こんな時は、「ママ、助かるなー、お手伝いしてくれる」と語り返すと、子どもの心には、「お手伝い」「助かる」という言葉の意味が分かり、お手伝いしてほしい時や、躰（しつけ）たい時など、強要するのではなく、この言葉を巧みに使っ

てしつけてみるのも負担が少なく、自ら取り組んでくれることと思います。また、子どもの心の中には、手伝ってあげたという思いに、喜びや楽しさが育ちます。大人の僅な語り掛けで、子供には大きな知恵や、言葉や豊かな感情が培われるのです。

忙しい毎日ですが、少しの時間を子どもに譲り、語り合ってみると、豊かな成長につながると思います。叱るより、褒める。拒否や否定より、取り組ませてみる。そんなことを心掛けたいものですね。